




ドロマイト石灰を用いた石灰乳塗布による衛生対策

石灰は消毒効果が高く、安価であることから、畜産現場でよく用いられる資材の一つです。一方、粉末の石灰は飛散しやすく、人や動物の目や皮膚に付着すると危険であること、生石灰は水と反応すると発熱し危険であることなど、取扱いに注意が必要です。

家畜改良センター鳥取牧場では、ドロマイト石灰(水酸化マグネシウムを含む消石灰)を水に溶かして調製した石灰乳で牛舎の消毒をしています。ドロマイト石灰は水に溶かしても発熱せず、農家の方がお持ちの道具だけで手軽に使用することが出来ます。以下に一般的な手順をご紹介しますので、日々の業務の参考になれば幸いです。

なお、石灰は強アルカリ性のため、取り扱う際は必ず手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を着用し、安全性に十分注意してください。

【作業手順】

1		牛を他の場所に移動させる。 糞便や敷料を搬出し清掃する。可能であれば、高圧洗浄機等で壁や床に付着した汚れを取り、よく乾燥させる。
2		ドロマイト石灰を水に溶かし、石灰乳を作る。 調製濃度は、各商品の用法用量に従う。 【用意するもの】 ・ドロマイト石灰 ・ポリバケツなどの容器 ・刷毛や洗車用ブラシなど ・じょうろ
3		刷毛やブラシ、じょうろなどでまんべんなく塗り広げ、よく乾燥させる。 ※床面の石灰が牛の乳房等に付着して刺激する可能性があるため、床面は塗付しないか、塗付後に敷料を敷く。
4		完成。 おが粉等の敷料を敷く。